

全体協議 生徒が主体的に深く学ぶための問いかけを組み込んだ授業だったか？

1. 校長より

知識が統合した深い学びを実現するための「問いかけ」を単元に一つは担当者で相談し、作って欲しい。

2. 教科別グループ報告

<国語>

情報の適切な読み取り方を学ぶことを主眼に、授業を計画した。グループで表やグラフから情報を読み取り、適当な考察の他に不適当な考察も提示し、他のグループがそれを見つける、という課題に生徒は取り組んだ。

生徒は、グループワークの小さい集団だと意見が出しやすい。5人は適当な人数だったと発言した。グループワークで異なる意見を聞き、自分の考えと比較することで学びが深まったとも発言した。授業者は、示された図表の考察を疑うことで、情報をうのみにしない批判的な思考を養い、ツイッターなどのさまざまな媒体から得られる情報を、適切に判断できるようになってほしいと発言した。授業評価「今日の授業の『問いかけ』により、自分の考えを深めることができた。」:

かなり当てはまる 19,ほぼ当てはまる 19,あまり当てはまらない 1,ほとんど当てはまらない 0

<社会>

戦勝国が戦敗国を裁くことについて考えた。小法廷で戦犯を裁く活動を通し、学びを深めた。葛藤しながら個々の判断をし、それをまとめ、全体で審判を下すと言う手順で、異なる意見をすり合わせる活動を行った。判決と個々の意見が異なるときに反発の反応があった。個々の価値観の違いを認識し、それをすりあわせる事で、実社会にも応用される学びに取り組んだ。

<数学>

2次方程式に三角関数が入り込んだ問いにとりくんだ。以前学んだ知識を応用させた。生徒は、自分一人で取り組んだ、他に教えた、周りと一緒に解に到達した、他に教えてもらった、と様々発言した。わからない人に教えることで考えを深めることができた、自分で解を考える前に人から教わってしまった、とも発言した。「問いかけ」により、気づきがあったという生徒と、あまりなかったという生徒がいた。

<理科>

まず実験をやり、後から理屈を考える手順で授業をデザインしている。自ら学ぼうとするきっかけとなる。前の授業の復習では、たくさんの生徒が手を挙げる。生徒は、一人でやるより皆でやりたい、挙手をした回数を数えるのは楽しいと発言した。年度の学習が中学の復習から始まったので、答えたい気持ちになり、手を挙げる習慣ができたと言った。授業者は、分からなかったら周りに聞けばよいという雰囲気を作っていきたいと発言した。参観者より、教師側の考えてほしいこととは違うことを考えている生徒もいたという発言があった。

やってから理屈を学ぶほうが、のちの定着率が高い、少しだけ負荷の高い課題に取り組ませるのは良いという発言もあった。

<体育>

まず一人で自分の欲求とそれが満たされない時の対処法について考え、その後、ペアでさらに別の対処法を考えた。理論を知識として学ぶ前に、まずは生徒に考えさせる授業デザインで実践した。生徒は、自分の欲求をまず主観的に、後にペアで客観的に見ることができた、プリントを知識で埋める活動ではなく、考える時間が持てたと発言した。

課題を考えると、男女のペアは適当でないのではという懸念があったが、生徒は無難な話題を選んで課題に取り組んだ。

参観者は、学校全体で取り組んでいることが分かると発言した。

授業評価「今日の授業の「問いかけ」により、自分の考えを深めることができた。」:

かなり当てはまる 17,ほぼ当てはまる 22,あまり当てはまらない 0,ほとんど当てはまらない 0

<英語>

高校生への筆者のメッセージを読み取らせ、印象に残った箇所を指摘させ、それぞれの進路について考えさせた。

生徒は、今日の目標があって授業の課題に取り組みやすかった、グループワークで辞書が使えない不安を乗り越えた、自分と他の意見の違いに気づきがあった、知識不足に気づいた、もっと時間を取って読みたいと感じたと発言した。

参観者より、生徒同士で助け合う安全な学習環境が大切と発言あり。

3. 協議

「問いかけ」を今年度のテーマにおいたが、生徒が主体的に深く学ぶためにうまく作用したか？

国語「どのような情報が必要か？」

地歴公民「戦争裁判は、平和を作ることができたのか？」

数学「三角比を含む二次式の最大・最小ってどう求めるの？」

理科「ポンポン船はなぜ、動くのだろう？」

保健体育「欲求が満たされない。その時、あなたはどのようにする？」

外国語「本文中で、印象的だった、または同感した、または疑問を持った部分はどこか？」

○問いかけが何なのかよく分からない。ヒントを少しずつ出して解に導くことは問いかけか？数学の「問いかけ」は、数学の問題を書いただけだった。

○大きな問いかけと小さな問いかけ、ゴールとしての問いかけとステップとしての問いかけがある。国語の授業の問題は「グラフを読み取りなさい」で、国語の「問いかけ」は、ステップとしての小さな問いかけを挙げた。

○発言者の世界史では、授業毎時冒頭で、「問いかけ」を示している。授業の全体テーマを問いとして設定し、それにこたえるような授業を行っている。

○松陽高校では、グループワークなどで互いの意見を交換し、考えを深める活動はあたりまえにお

こなわれており、その次の段階をめざしていきたい。授業者が意図したことについて、生徒が主体的に深く考えることができる「問いかけ」であったかを考えたい。

- 研究授業後の生徒との協議で、授業者の提示した問いかけ以外のところで生徒はいろいろ考えていたという気づきがあった。無理やり自分の意図した方へもっていったが、生徒の考えに目を向けられたらよかった。
- 英語では、自分にとって印象的な部分を探すという正解のない「問いかけ」があった。生徒は個での取組からグループ内での他との比較、クラスでの共有という手順を通して、自分の読みが甘かったと考えたり、新たな発見があったりと、思考がさらに深まったと発言した。「問いかけ」とは、「仕組み」や「しかけ」と言い換えられる。
- 発言者が過去に経験した数学の授業では、問題の答えを求めることに終始してしまうことが多くあった。問題を解くことの意味を教えてもらうことがなかったが、そこについての説明があれば、「問いかけ」が作られる。
- 数学では、生徒同士が共に学び、教員からは何も働きかけない形の深い学びをしている。

4. 講評（国語・教育課題研究課主幹（兼）指導主事）

「問いかけ」は「仕掛け」ではないか。「問いかけ」は、単元・教科の本質に迫るものであるべきである。答えが一つではない問いにするとよい。答えが一つに集約されたとしても、複数の立場や視点・根拠に基づくものとなることが必要だ。他者の考えも知りたくなる問いであること、それを知ったことで考えがより良くなり、自分の考えが、社会をよくするための考えに至る。他教科の問いを見ることでよりよい問いの設定を学べる。